

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原町の公共施設
3	資料名	与那古浜公園
4	内容分類	施設・建造物
5	索引語	与那古浜公園 東浜 山原船 聞得大君 御新下り
6	説明	<p>■与那古浜公園</p> <p>与那古浜公園は与那原町（沖縄県）にある公園で、埋め立てにより造成された与那原町東浜地区に位置する。この一帯は、1996年（平成8年）から始まった埋立事業により誕生した新しいまち「マリンタウン」として整備された。供用面積は4.16ヘクタールで東京ドームの一回り小さい規模である。</p> <p>開放的な芝生エリアがあり、子どもたちのボール遊びやジョギング、散歩など地域住民が利用しやすい場所として親しまれている。さらにバスケットやトレーニングができる健康遊具、トラックなども整備され、世代を問わず多くの人々に親しまれる憩いの場である。</p> <p>また、与那古浜公園は多彩なイベントの会場として利用されている。与那原大綱曳まつりの会場をはじめ、「ゆかた祭 in 与那古浜」、「てくてくウォーク」、「沖縄100K ウルトラマラソン」がある。冬になると、与那原にキャンパスがある沖縄女子短期大学の学生と一緒にイルミネーションの点灯式が開催され、多くの地元住民・大学生がイルミネーションを見に与那古浜公園に足を運んでいる。</p> <p>参照サイト 与那原町ホームページ、公園 https://www.town.yonabaru.okinawa.jp/soshiki/13/139.html（2025/10/15閲覧） YONABARU NAVI、与那古浜（よなこはま）公園 YONABARU NAV- 沖縄県 https://yonabaru.okinawa/spot/activity/yonakohama-park/（2025/10/15閲覧） 琉球大学、琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ、聞得大君加那志様御新下日記1， https://shimuchi.lib.u-ryukyu.ac.jp/collection/iha/ih03201，アクセス日 20250815。 沖縄県立図書館、「間切図 島尻」（沖縄県立博物館・美術館所蔵）、琉球国之図（薩摩藩調製琉球図）・間切図【複製資料】，https://www.library.pref.okinawa.jp/item/index-1101396315_1007901869.html，アクセス日 20250815。</p> <p>■与那古浜公園の地の歴史とその名称の由来</p> <p>現在、与那古浜公園がある場所はかつて琉球王国の儀式が行われた浜であり、その後は港として栄えた場所である。琉球王府時代から昭和初期にかけて沖縄県の北部から中南部に物資を運ぶため山原船（やんばるせん）と呼ばれる船が出入りしていた港だった。木綿帆をかかげた帆船で、馬艦（マールン）船や帆船（フーシン）とも呼ばれていた。物資は、南部からは米・麦・豆などの穀類や糖・塩などの日用雑貨、北部からは木材・薪炭などを運搬していた。与那原は琉球王朝時代から敗戦直後まで山原船が行き交い、港町・陸海交通の要所として栄えていた。</p>

		<p>「おもろさうし」巻 22 の 24</p> <p>大さとのけすのおもい 〈訳〉 与那覇浜（与那原浜）</p> <p>あんしきやふし <u>あきり口</u>で聞得大君よ</p> <p>一 よなははまきこゑ 八千代（とわ）に世を続べ</p> <p>大きみ 霊威を鳴りとどろかせてください</p> <p>やちよかけてと</p> <p>よまさに</p> <p>又 あきりくちとよむ</p> <p>大きみ</p> <p>やちよ</p> <p>与那原の「ヨナ」は、沖縄の方言では「ユナ・ヨナ」と呼び、海岸のサンゴ礁を意味しているとされている。「ハル（原）」は開墾地の意味をしている。与那原町の浜についての記述は 1531 年に編集されたといわれている「おもろさうし」巻 22 の 24 に記載されており、「よなはら」とみえる。「あきり口」（ニライカナイの上がり口の意か）は「阿知利」という与那原地区内の地名の由来と推測され、歌のその後に「聞得大君よ」とあることから与那原の浜と聞得大君との強いかわりがあることを意味している。</p> <p>「聞得大君御新下り日記」（1840（尚育 6）年）には琉球王国の最高神女・聞得大君（きこえおおきみ）の即位儀式「御新下り（うあらおり）」の道中、与那原（親川、浜の御殿（御殿山）、与那古浜）でも儀式が行われたことが詳細に記されており、「与那古浜」という呼称が使われている。</p> <p>また、沖縄県立博物館・美術館が所蔵する「間切図 島尻」にも「與那小浜」という文字が確認でき、古き名称を今に伝えている。その後、与那古浜は埋め立てにより現在の東浜区となった。</p> <p>「聞得大君御新下り日記」については琉球大学附属図書館が貴重資料として所蔵しており、デジタル化され WEB サイトにて公開されている。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none">・高良倉吉、『沖縄県の地名 日本歴史地名大系 48』, 平凡社, 2002.・与那原町ホームページ, 広報よなばる 2011 年, 2023 年 1 月 30 日更新, https://www.town.yonabaru.okinawa.jp/uploaded/attachment/746.pdf (2025/10/19 閲覧)・琉球大学, 琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ, 聞得大君加那志様御新下り日記 1, https://shimuchi.lib.u-ryukyu.ac.jp/collection/iha/ih03201, アクセス日 20250815.
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	與那嶺叶
9	時代・年	撮影日：2026/02/16
10	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町東浜 77
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学

14	協力者	なし
15	登録日	2025/10/25
16	登録者	與那嶺叶
17	ファクトデータ	
18	* 特色	<p>■ 聞得大君（きこえおおぎみ）とは</p> <p>聞得大君（きこえおおぎみ）とは、琉球王時代にいた琉球国王を守る神女のこと。「霊力（せじ）」という不思議な力を持っていると信じられてきた。国王の長寿や王室の繁栄農作物の豊作、航海の安全を祈るための儀式を行う。王国や役人が国を治め、神女という女性たちが神様にお祈りをする役割で、聞得大君は、この神女たちのトップであった。代々、王の娘、王妃、王の未亡人やおばなどの王族が就任し、各地の神女を統率していた。</p> <p>■ 御新下り</p> <p>聞得大君になる際の重要な儀式のこと。首里から出発し、与那原町にある御殿山が最初の休息地である。その後、佐敷の拝所や知念の斎場御嶽（せいふあうたき）を巡り儀式を完了させる。</p> <p>■ 施設情報</p> <p>①施設利用時間：09:00～22:00</p> <p>②定休日：なし</p> <p>③駐車場：95 台</p> <p>④スポーツ種目：陸上競技／グラウンドゴルフ</p> <p>⑤スポーツ施設：多目的広場</p> <p>⑥施設詳細：グラウンドゴルフ、200m×9 レーン、全天候型、天然芝フィールド(7,707 m²・126.76m×60.8m)、投てき(砲丸)、跳躍(幅跳び)</p> <p>⑦施設附帯設備：駐車場</p> <p>⑧バリアフリー情報：駐車場／スロープ</p> <p>⑨周辺施設：ローソン 与那原東浜店／カインズ FC あがり浜店／ダイソー あがり浜 SC 店／A&W マリントウンあがり浜店／ほっともっと 与那原東浜店／ファーマーズマーケット与那原あがり浜市場／沖縄県営与那原マリーナ</p>
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料 2	